

科目番号: 15

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	解剖生理学 I / 人体を構成する細胞と組織循環				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	前期		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 (医学書院)					
目的 人体を構成している組織・細胞の構造と機能を知り、生命維持のシステムを理解する。					
目標 1. 人体の基本的構造が理解できる。 2. 血液成分と機能について理解できる。 3. 血液循環(体循環、肺循環、微小循環)について理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	人体の階層性、人体の機能(植物機能・動物機能)、ホメオスタシス				講義
2	細胞の構造、細胞の増殖と染色体、細胞膜の構造と機能				講義
3	細胞を構成する物質とエネルギーの生成、体液の区分・組成				講義
4	分化した細胞がつくる組織				講義
5	血液の組成と機能				講義
6	血液の組成と機能				講義
7	血液循環(血管の構造、体循環、肺循環、微小循環の調節)				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
解剖生理学は疾患や症状を理解するのに役立つだけでなく、人の生活を理解する上で大切な科目です。よく復習をして、理解をできるようにしましょう。					

科目番号: 16

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	解剖生理学Ⅱ/人体の形態・生命維持機能				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 (医学書院)					
目的 身体の構造及び運動機能・生命維持の原動となる器官の形態(構造)と機能について学ぶ。					
目標 1. 骨格系、筋系における人体の正常な形態(構造)と機能を理解できる。 2. 呼吸器、循環器、泌尿器、消化器系における人体の正常な形態(構造)と機能を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	骨格系(骨)構造				講義
2	骨格系(骨)機能				講義
3	骨格系(筋肉)構造				講義
4	骨格系(筋肉)機能				講義
5	神経				講義
6	呼吸器系(構造・機能)				講義
7	呼吸器系(構造・機能)				講義
8	呼吸器系、循環器系				講義
9	呼吸器系、循環器系				講義
10	循環器系				講義
11	循環器系				講義
12	消化器系(構造・機能)				講義
13	消化器系、泌尿器系				講義
14	泌尿器系				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
解剖生理学は疾患や症状を理解するのに役立つだけでなく、人の生活を理解する上で大切な科目です。よく復習をして、理解をできるようにしましょう。					

科目番号: 17

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	解剖生理学Ⅲ/人体の調節機構と生殖				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 (医学書院)					
目的 生命を維持するために必要な調節機構および種を維持していくための生殖機能について学ぶ。					
目標 1. 神経組織の構造・興奮伝達の仕組み、中枢神経系の働きについて理解できる。 2. 脳の構造と機能について理解できる。 3. 脊髄の構造と機能、脊髄神経、自律神経の働きについて理解できる。 4. 生殖器の機能、妊娠・分娩のメカニズムについて理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	神経組織の構造・興奮伝達の仕組み				講義
2	中枢神経系の構造と機能 (大脳、間脳)				講義
3	中枢神経系の構造と機能 (中脳、橋、延髄、脊髄)				講義
4	末梢神経 (脳神経、脊髄神経)				講義
5	末梢神経 (体性神経、自律神経)				講義
6	感覚器 (視覚、聴覚)				講義
7	感覚器 (嗅覚、味覚、体性感覚)				講義
8	内分泌 (視床、下垂体)				講義
9	内分泌 (甲状腺、副甲状腺、副腎)				講義
10	内分泌 (膵臓)				講義
11	内分泌 (脂肪、心臓、腎)				講義
12	生殖器 (男性の生殖器系の構造と機能)				講義
13	生殖器 (女性の生殖器系の構造と機能)				講義
14	生殖器 (受精と発生)				講義
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他 解剖生理学は疾患や症状を理解するのに役立つだけでなく、人の生活を理解する上で大切な科目です。よく復習をして、理解をできるようにしましょう。					

科目番号: 18

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	生化学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕 生化学(医学書院)					
目的 生体内の化学反応について理解し、健康の維持、病気の改善のための基礎的知識を学ぶ。疾患・治療・看護の理解の礎とする。					
目標 1. 人体を構成している化学物質の性質、機能、その分布及びこれらの物質の代謝について理解できる。 2. 遺伝情報とその発現の仕組みについて理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	ガイダンス、生化学の基礎知識、糖質とは				講義
2	糖質代謝				講義
3	脂質				講義
4	脂質代謝				講義
5	タンパク質、アミノ酸				講義
6	タンパク質、アミノ酸代謝				講義
7	酵素、ビタミン				講義
8	ポルフィリン代謝				講義
9	核酸・遺伝				講義
10	核酸・遺伝				講義
11	核酸・遺伝				講義
12	生体酸化とエネルギー利用				講義
13	シグナル伝達(ホルモン含む)				講義
14	シグナル伝達(ホルモン含む)				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 19

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	生活行動と形態機能学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師
テキスト					
新体系看護学全書 人体の構造と機能③ 形態機能学(メヂカルフレンド社)					
系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学(医学書院)					
目的					
人体の構造及び生理機能が人の生活行動のなかでどのように働き機能しているかについて学ぶ。人体の解剖生理の知識を活用し、人間の生活行動を理解することで、対象の日常生活援助を実施する上での根拠および実施手順の基礎を理解する。					
目標					
1. 人体各種の形態機能について理解することができる。					
2. 人体の臓器がどのように機能し、人の生活行動を支えているかを理解することができる。					
3. 人の生活行動に関心を寄せることができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	生命の維持と生活行動、生活行動を支える看護の役割				講義・演習
2	日常生活行動「会話する」(生活行動分析、生活行動に必要な器官と機能、障害された部分と看護)				講義・演習
3	日常生活行動「会話する」(生活行動分析、生活行動に必要な器官と機能、障害された部分と看護)				講義・演習
4	日常生活行動「会話する」(生活行動分析、生活行動に必要な器官と機能)				講義・演習
5	日常生活行動「考える」「動く・活動する」「息をする」「食べる」「トイレに行く(排尿・排便)」				演習
6	日常生活行動「考える」「動く・活動する」「息をする」「食べる」「トイレに行く(排尿・排便)」				演習
7	日常生活行動「考える」「動く・活動する」「息をする」「食べる」「トイレに行く(排尿・排便)」				演習
8	日常生活行動「考える」「動く・活動する」「息をする」「食べる」「トイレに行く(排尿・排便)」				演習
9	発表・検討会 日常生活行動「考える」「動く・活動する」「息をする」「食べる」「トイレに行く(排尿・排便)」				演習・検討会
10	発表・検討会 日常生活行動「考える」「動く・活動する」「息をする」「食べる」「トイレに行く(排尿・排便)」				演習・検討会
11	事例の日常生活行動分析、生活行動を障害された部分と必要な看護				演習
12	事例の日常生活行動分析、生活行動を障害された部分と必要な看護				演習
13	発表・検討会 事例の日常生活行動分析、必要な看護				演習・検討会
14	発表・検討会 事例の日常生活行動分析、必要な看護				演習・検討会
15	試験・まとめ				
評価方法・評価基準					
筆記試験40%、グループワーク・発表60%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
解剖生理学で学んだ内容を復習し、各臓器の機能の知識を想起しながら講義・演習に臨みましょう。普段、何気なく行っている生活行動が多くの器官の働きによって行われていることを実感する授業になると思います。その活動がどのような部分で阻害されているかを考え、看護につなげていきましょう。					

科目番号: 20

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	病理学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		医師
<p>テキスト</p> <p>新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学(メヂカルフレンド社)</p>					
<p>目的</p> <p>外的・内的要因による身体の変化を科学的な視点から理解し、疾病について学ぶ。</p>					
<p>目標</p> <p>1. 生体の反応と恒常性(ホメオスタシス)について理解できる。                  2. 免疫のしくみについて理解できる。                  3. 腫瘍・循環障害・炎症の原因、発生のしくみ、体に与える影響について理解できる。</p>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	病理学とは				講義
2	老化と死について				講義
3	細胞と創傷				講義
4	炎症				講義
5	免疫				講義
6	止血				講義
7	循環障害				講義
8	腫瘍				講義
9	先天異常				講義
10	感染症				講義
11	環境と疾患				講義
12	生活習慣病				講義
13	生活習慣病				講義
14	難病				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 21

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	微生物学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト 今西二郎 他編著 看護微生物学 第4版 (医歯薬出版株式会社)					
目的 微生物の特徴と性質や微生物に対する宿主の反応、免疫と感染症に関する基礎的知識を学び、疾患や治療に関する知識を身に付けるための基礎とする。					
目標 1. 微生物の概要、一般的特徴、その性質と宿主の反応を理解できる。 2. 感染のメカニズムと免疫のしくみを理解できる。 3. 主な感染症とその診断・予防・治療法について理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	生物の復習、微生物学とは				講義
2	細菌、ウィルス、真菌、原虫の構造、代謝増殖について				講義
3	細菌、ウィルス、真菌、原虫の構造、代謝増殖について				講義
4	感染と発病 化学療法薬、薬剤耐性について				講義
5	感染と保菌の違い、感染経路について(気道感染症、腸管感染症、尿路感染症)				講義
6	感染と保菌の違い、感染経路について(性感染症、皮膚・粘膜の感染症、その他)				講義
7	感染症の診断(各種検査法について、院内感染)				講義
8	感染症の予防(滅菌、消毒、スタンダード・プリコーション、ワクチン)				講義
9	免疫(自然免疫、獲得免疫)				講義
10	免疫(自然免疫、獲得免疫)				講義
11	微生物各論(グラム陽性菌、陰性菌)				講義
12	微生物各論(グラム陽性菌、陰性菌、マイコプラズマ等)				講義
13	微生物各論(DNAウィルス、RNAウィルス、真菌等)				講義
14	微生物各論(DNAウィルス、RNAウィルス、真菌等)				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 22

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	治療論 I / 呼吸器、循環器、血液・造血器				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		医師
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕 循環器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕 血液・造血器(医学書院)					
<b>目的</b> 呼吸器、循環器、造血器の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。					
<b>目標</b> 1. 主な呼吸器系の疾患を持つ人に現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 2. 主な循環器系(心臓・血管)の疾患を持つ人に現れる症状の原因・病態生理を理解できる。 3. 造血器の疾患を持つ人に現れる症状について原因・病態生理を理解できる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	呼吸器の機能と構造				講義
2	呼吸器系の疾患の病態と症状 (感染症、胸膜疾患、横隔膜疾患)				講義
3	呼吸器系の疾患の病態と症状 (気道疾患、呼吸調節に関する疾患(過換気症候群、SAS))				講義
4	呼吸器系の疾患の病態と症状 (肺腫瘍、肺循環疾患(肺血栓塞栓症))				講義
5	呼吸器系の主な検査 (血液検査、喀痰検査、画像診断、内視鏡検査、生検、呼吸機能検査)				講義
6	呼吸器系の主な治療・処置 (吸入療法、酸素療法、人工呼吸療法、呼吸リハビリテーション、手術療法)				講義
7	呼吸器系の主な治療・処置				講義
8	循環器の機能と構造、循環器系の疾患の病態と症状 (先天性心疾患、虚血性心疾患、心不全)				講義
9	循環器系の疾患の病態と症状 (血圧異常、不整脈、弁膜症、心膜炎)				講義
10	循環器系の疾患の病態と症状 (動脈系疾患、静脈系疾患、心筋疾患)				講義
11	循環器系の主な検査 (心電図、胸部X線検査、心エコー、心臓カテーテル法、血行動態モニタリング)				講義
12	循環器系の主な治療・処置(薬物療法、PCI、ペースメーカー治療、CABG、弁置換・形成術、IABP)				講義
13	血液系の疾患の病態と症状(貧血、造血器腫瘍、出血性疾患)				講義
14	血液系の主な検査(血液検査、骨髄穿刺・生検、リンパ節生検)、血液性の主な治療・処置				講義
15	血液系の疾患の病態と治療、試験				講義
<b>評価方法・評価基準</b>					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b>					
講義の中で外科的治療について学ぶため臨床看護学各論を適宜準備するようにしてください。					

科目番号: 23

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	治療論Ⅱ/消化管、肝・胆・膵				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	後期		医師
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)					
<b>目的</b> 消化器の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。					
<b>目標</b> 1. 消化管の障害により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。 3. 肝臓、胆嚢、膵臓系の疾患により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 4. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	消化器系が障害された対象の症状とそのメカニズム				講義
2	消化器系が障害された対象への検査				講義
3	消化器系が障害された対象が使用する薬物				講義
4	消化器系の疾患とその特徴 食道、胃・十二指腸潰瘍、腸(大腸癌、ポリープ、イレウスなど)				講義
5	消化器系の疾患とその特徴 上部消化管の外科的治療				講義
6	消化器系の疾患とその特徴 上部消化管の外科的治療				講義
7	消化器系の疾患とその特徴 下部消化管の外科的治療				講義
8	消化器系の疾患とその特徴 下部消化管の外科的治療				講義
9	肝臓が障害された対象の症状とそのメカニズム				講義
10	肝疾患の特徴、検査と内科療法				講義
11	肝疾患 外科療法				講義
12	胆道・膵臓が障害された対象の症状とそのメカニズム				講義
13	胆・膵疾患の特徴、検査と内科療法				講義
14	胆・膵疾患 外科療法				講義
15	試験・まとめ				講義
<b>評価方法・評価基準</b> 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b>					

科目番号: 24

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	治療論Ⅲ/脳神経、運動器				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	後期		医師
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器(医学書院)					
目的					
運動器・脳神経系の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。					
目標					
1. 運動器・脳神経系の障害により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。					
2. 運動器・脳神経系の疾患により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	運動器疾患の症状とその病態生理、診断・検査				講義
2	ギプス～リハビリテーションまで 骨折				講義
3	脊髄をのぞく骨折治療、脱臼、捻挫				講義
4	捻挫、腱、先天性疾患、リウマチ、痛風				講義
5	痛風、骨腫瘍、骨代謝				講義
6	フレイル、ロコモティブシンドローム、骨端症				講義
7	末梢神経疾患				講義
8	筋、神経、筋接合部疾患				講義
9	神経免疫疾患、変性疾患、認知症				講義
10	脊髄疾患、外傷				講義
11	脳神経疾患の症状と病態生理、機能局在と脳血管				講義
12	頭蓋内圧亢進と意識障害				講義
13	脱髄変性疾患				講義
14	脳腫瘍、血管障害				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
講義の中で外科的治療について学ぶため臨床看護学各論を適宜準備するようにしてください。					

科目番号: 25

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	治療論Ⅳ/内分泌・代謝、女性生殖器、腎・泌尿器				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		医師
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕 女性生殖器(医学書院)					
<b>目的</b> 内分泌・代謝、免疫機構、腎・泌尿器により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。					
<b>目標</b> 1. 内分泌系、女性生殖器、泌尿器の障害により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	内分泌総論 各ホルモンと疾病の関係、起こる症状、検査の見方、治療				講義
2	糖代謝が障害されて起こる疾患と治療 (糖尿病)				講義
3	脂質代謝が障害されて起こる疾患と治療 (脂質異常症)				講義
4	メタボリックシンドローム 高尿酸血症				講義
5	甲状腺・副甲状腺の機能 疾患の症状と外科的治療				講義
6	女性生殖器の疾患と検査、治療				講義
7	良性疾患、悪性疾患、生殖機能障害				講義
8	乳房・乳腺の解剖生理 乳腺腫瘍の分類、診断と治療				講義
9	腎・泌尿器系の解剖・生理 総論				講義
10	腎・泌尿器系が障害されて起こる症状と検査、腎不全				講義
11	腎・泌尿器系が障害されて起こる疾患と外科的治療 悪性腫瘍、結石症、前立腺肥大症など				講義
12	腎・泌尿器系が障害されて起こる疾患と外科的治療 腎臓系				講義
13	腎・泌尿器系が障害されて起こる疾患と外科的治療 膀胱				講義
14	腎・泌尿器系が障害されて起こる疾患と外科的治療 膀胱・前立腺				講義
15	試験・まとめ				講義
<b>評価方法・評価基準</b> 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b> 講義の中で外科的治療について学ぶため臨床看護学各論を適宜準備するようにしてください。					

科目番号: 26

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	治療論Ⅴ/アレルギー、膠原病、感覚器				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
				菊地英豪 伊藤亜理紗	
講義回数	15回	開講時期	前期	間山千尋 月舘利治	医師
				長澤宏和	医師
<p>テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚、 成人看護学[13] 眼(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉、 成人看護学[15] 歯・口腔(医学書院)</p>					
<p>目的</p> <p>感覚器と免疫機構の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。</p>					
<p>目標</p> <p>1. 感覚器、免疫機構の障害により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。</p> <p>2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。</p>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	アレルギー、膠原病(症状、治療)				講義
2	アレルギー、膠原病(症状、治療)				講義
3	皮膚科総論(皮膚の機能・構造、発疹学、検査・治療)				講義
4	皮膚疾患各論(湿疹・蕁麻疹・薬疹、感染症・付属器)				講義
5	皮膚疾患各論(角化症、水痘症、血行障害、膠原病、腫瘍、熱傷)				講義
6	眼の構造と機能				講義
7	眼疾患の検査・治療				講義
8	眼疾患患者の援助				講義
9	耳の解剖、中耳疾患				講義
10	中耳、内耳疾患				講義
11	鼻・副鼻腔、咽頭・喉頭の解剖、疾患と治療				講義
12	咽頭・喉頭の解剖、疾患				講義
13	歯・口腔の解剖、疾患				講義
14	歯・口腔疾患の検査・治療				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする					
その他					
講義の中で外科的治療について学ぶため臨床看護学各論を適宜準備するようにしてください。					

科目番号: 27

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	治療論VI/リハビリテーション				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	前期		医師
					理学療法士
					作業療法士 言語聴覚士
テキスト 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護(医学書院)					
目的 疾病により生活行動に障害を持った対象へのリハビリテーションのあり方を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。					
目標 1. リハビリテーション療法の基本的考え方が理解できる。 2. 障害者の日常生活行動を再構築するための基本が理解できる。 3. 主な機能障害のリハビリテーション療法の実際が理解できる。 4. 障害を持つ人の社会生活復帰への援助について考えることができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	リハビリテーション総論				講義
2	理学療法とは				講義
3	理学療法 脊髄損傷・運動器障害				講義
4	理学療法 呼吸器・循環器障害				講義
5	作業療法とは				講義
6	作業療法 脳神経・高次脳機能障害				講義
7	言語療法とは 言語・嚥下障害				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 28

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	治療論Ⅶ/手術療法、化学療法、放射線療法、緩和医療				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	後期		医師 認定看護師
テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院) はじめての手術看護(メディカ出版)					
<b>目的</b> 各種医療・処置が全身に及ぼす影響を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。					
<b>目標</b> 1. 各種医療・処置が全身に及ぼす影響について理解できる。 2. 各種治療が行われる代表的疾患と管理および合併症について理解できる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	外科的治療とは 総論				講義
2	外科的治療に対する身体的反応 身体侵襲 合併症				講義
3	麻酔とは 総論				講義
4	麻酔による合併症 全身麻酔・脊髄麻酔・局所麻酔				講義
5	放射線治療とは 総論				講義
6	放射線治療に対する身体的反応 身体侵襲				講義
7	放射線治療による合併症 代表的疾患				講義
8	放射線療法とは 総論				講義
9	放射線療法による身体的反応 身体侵襲				講義
10	化学療法とは 総論				講義
11	化学療法に対する身体的反応 身体侵襲 合併症 代表的疾患				講義
12	緩和医療とは 総論				講義
13	緩和医療 全人的ケア インフォームド・コンセント				講義
14	緩和医療 疼痛管理・全身管理				講義
15	試験・まとめ				講義
<b>評価方法・評価基準</b>					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b>					

科目番号: 29

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	薬理学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	後期		薬剤師
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕 薬理学(医学書院)					
目的 治療の中心的役割を果たす薬物の特徴、作用機序、人体における薬物の有効性と有害性、疾患と薬物の関係について理解し、薬物療法を安全に行う基礎的知識を学ぶ。					
目標 1. 主な薬物の特徴、作用機序、有効性と有害性、特徴について理解できる。 2. 薬物療法を安全に行うための基礎知識を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	薬理学総論①				講義
2	薬理学総論②				講義
3	抗感染症薬				講義
4	免疫治療薬、抗アレルギー薬等				講義
5	免疫グロブリン製剤				講義
6	末梢神経・中枢神経系				講義
7	循環器系①				講義
8	循環器系②・物質代謝				講義
9	呼吸器・消化器・生殖器系				講義
10	輸液製剤・血液製剤・アルブミン製剤				講義
11	抗がん薬①				講義
12	抗がん薬②				講義
13	麻薬鎮静薬				講義
14	皮膚科・眼科用剤、演習問題				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 30

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	栄養学				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	後期		管理栄養士
テキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能[3] 栄養学(医学書院)					
目的 人間の健康維持、疾病の発病や治療に栄養が大きな役割を持っていることを認識し、食事療法の基本について理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。					
目標 1. エネルギー算出方法、日常生活強度、食品交換表等の食事療法に必要な基礎知識を理解できる。 2. 代表的な疾患について、病態生理と栄養の問題を関連して考え食事療法を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき				講義
2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝、食事摂取基準				講義
3	栄養ケアマネジメント、栄養状態の評価・判定				講義
4	ライフステージと栄養				講義
5	臨床栄養（肝疾患、膵疾患、腎疾患、高血圧、心疾患）				講義
6	臨床栄養（肥満、脂質異常症、動脈硬化症、胃切除後、痛風、骨粗鬆症）				講義
7	臨床栄養（糖尿病、貧血、クローン病）				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 31

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	医療システム				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	8回	開講時期	前期		医師
テキスト なし					
目的 日本の医療の歴史と現代の医療システムを学び、医療の社会的役割を学ぶ。					
目標 1. 医療の歴史を理解できる。 2. 保健医療福祉の職種と役割が理解できる。 3. 現代日本の保健医療福祉サービスシステムと問題点について理解し、今後の課題について考えることができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	医療の歴史				講義
2	日本人の健康と疾病				講義
3	日本の医療システム				講義
4	病院へ行こう				講義
5	医療の質と医療安全				講義
6	救急・災害医療、医の倫理と患者の権利				講義
7	プロフェッショナリズム				講義
8	プロフェッショナリズム				講義
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
レポートと出席状況を総合的に評価をしたものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 32

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	医療倫理				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	前期		医師
<p>テキスト</p> <p>柳沢信夫著 現代医学概論 第3版 医歯薬出版</p>					
<p>目的</p> <p>医療の進歩が生命倫理や現代社会に投げかけている問題を考え、自己の倫理観・看護観を養う。</p>					
<p>目標</p> <p>1. 医療現場における生命倫理について考えることができる。                  2. 死生観や権利擁護について学び、内省を深め倫理観や看護観を養うことができる。                  3. 他者の価値観や生命を尊重することができる。</p>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	ガイダンス 医療倫理とは				講義
2	医療倫理の歴史				講義
3	医療倫理学の方法 シネメデュケーション				講義
4	死と喪失 性と生殖				講義
5	リビングウィル				講義
6	自己決定権と患者の意思 インフォームド・コンセント				講義
7	患者の権利と公共の福祉				講義
8	臓器移植				講義
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
<p>発表評価100%とし、100点中60点以上を合格とする。                  出席態度が著しく悪い場合は減点の対象となる。</p>					
その他					
<p>学習内容をまとめ、発表を行う。</p>					

科目番号: 33

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	公衆衛生の基礎				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	後期		
<p>テキスト</p> <p>清水忠彦 他編 わかりやすい公衆衛生学 第4版(ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>厚生指標 増刊 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)</p> <p>目的</p> <p>人々の健康の保持・増進を図ることを目的とし、集団を対象とした保健活動を理解するための 基礎的知識を学ぶ。国際社会の中での将来の日本社会を展望し、公衆衛生のあり方について考える力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人の健康と集団の健康について環境や人口統計・保健統計を通して理解できる。</li> <li>2. 人々の健康の保持・増進のために行われる衛生活動について理解できる。</li> <li>3. 諸外国の実情を知り、これからの公衆衛生のあり方について考えることができる</li> </ol>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	公衆衛生とは(プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ハイリスク・ポピュレーションアプローチ)				講義
2	人口統計・保健統計(国勢調査、人口動態・静態)、疫学的手法				講義
3	環境と問題への対策(地球環境、食品・家庭用品、ごみ・廃棄物、住環境)				講義
4	感染症と対策(感染症の基本、主要な感染症と動向)				講義
5	精神保健(精神保健福祉法)				講義
6	母子保健(母子保健法、母子健康手帳、保健指導・訪問指導、母体保護法)				講義
7	母子保健(母子保健法、母子健康手帳、保健指導・訪問指導、母体保護法)				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 34

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	公衆衛生と健康支援				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	前期		
<p>テキスト</p> <p>清水忠彦 他編 わかりやすい公衆衛生学 第4版(ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>厚生指標 増刊 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)</p> <p>目的</p> <p>家族や職場・地域での健康の保持・増進の具体的な施策について学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>1. 社会の健康水準を高めるための組織的な保健活動について理解できる。</p>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	地域保健(地域保健法、健康日本21、健康増進法)				講義
2	学校保健				講義
3	がん・難病対策				講義
4	職場の健康管理(目的と対象、労働基準法、労働安全衛生法、労働衛生の3管理、ワークライフバランス)				講義
5	生活習慣病(主な生活習慣病の現状、肥満対策、特定健康診査、特定保健指導)				講義
6	生活習慣病(主な生活習慣病の現状、肥満対策、特定健康診査、特定保健指導)				講義
7	地域の生活習慣病予防への取り組み(喫煙、飲酒、癌、糖尿病、循環器疾患、脳血管疾患、肥満)				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 35

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	社会福祉				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	後期		
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉(医学書院)					
目的 国民の生存権を保障し、生活水準を高めるための保健医療福祉の現状を学ぶ。					
目標 1. 日本社会における保健医療福祉の現状を理解できる。 2. 社会福祉制度の概要を理解し、健康や障害の状態に応じた社会資源の活用方法を理解できる。 3. 現代の社会福祉制度とサービスの実際を将来の展望を含めて理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	社会保障制度・社会福祉の法制度と歴史的展開				講義
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向				講義
3	医療保障(国民健康保険、高齢者医療制度、国民医療費の動向、公費医療制度、診療報酬制度)				講義
4	所得保障(年金制度、雇用保険、労働災害者補償保険制度)				講義
5	公的扶助(生活保護制度の基本理念と原則、扶助の種類と内容)				講義
6	介護保険、福祉サービス(高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉)				講義
7	社会福祉実践と医療・看護(職種間・多機関連携、エンパワメント、アドボカシー、セルフヘルプ・グループ)				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 36

分野	専門基礎分野				
科目名(必修)	看護関係法規				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	前期		看護師
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令(医学書院)					
目的 医療・看護を取り巻く社会の変化や社会からのニーズを理解し、看護専門職として従事する上で必要な法制度について理解する。国家資格取得者としての責務を理解し、プロフェッショナリズムを養う。					
目標 1. 医療を取り巻く社会の変化と法律について理解できる。 2. 保健医療における重要な関係法規を理解できる。 3. 保助看法を理解し、看護職者の免許、業務などの法的解釈を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	法の概念・看護と法				講義
2	医療に関する法律				講義
3	看護に関する法律				講義
4	医療・看護に関する法律(グループワーク)				演習
5	医薬品・医療機器に関する法律				講義
6	保健・福祉に関する法律				講義
7	労働衛生に関する法律				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
グループワーク・レポート20%、筆記試験80%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					